

俳句

大津俳句会

掃くたびに重たくなりし春落葉

井芹貞一郎

退院の身体潤すしじみ汁

秋山 恵子

包丁に匂ひ残して露の臺

市原 初女

露のたう味噌ねり上げし母の味

江藤 みち

迎春花玄関先に咲きこぼれ

大塚喜久子

梅一輪面影凜と祖母忌日

坂本 セキ

幼な児の触れて揺れたる梅の花

佐賀 久子

畳まで雛の並びし日田の宿

堀川 妙子

窓越しに梅一輪や夕日添ふ

松尾 昭雅

咲き競ひ未だ濃淡花並木

武藤 規子

風光る初心に戻る句のライブ

渡邊佳代子

俳句

つのはな句会

狛犬の叫^{うん}の足から春が来る

星永 文夫

木枯しの声を聞いている昼の闇

塚本 洋子

着信の春のメールに鬼百匹

志賀 孝子

因数分解とけぬからゆり鷗

田上 公代

古民家の囲炉裏に爆^{はぜ}る過去・未来

木庭 杏子

ベール穴の穴に集まる春の蟲

上杉 波

すすり泣くなずな焼死の記事までも

矢嶋 道子

いつまでも空で泳いでいたいいか幟

水野 春子

熱燗に昭和のそつと顔を出す

梅木トキエ

短歌

大津短歌会

稜線に並ぶ風車を数えつつ

視力確かむ晴天の日に

豊岡ミツル

孫達の授業参観かけもちで

本日着てゆくピンクのジャケット

渡辺佐代子

独り居の料理教室若きらと

楽しき集い刻は早や過ぐ

管野 静

白々と萼の小花の戦ぐ中

月の光をまといつつ行く

吉永 恵子

凧も見ず羽根音たえしお正月

せめて守らん学童カルタ会

小平 善行

短歌

万年青短歌会

グーチョキパー片手つき出し

片手胸卒寿の脳が焦っています

合志 妙子

電気治療受つつ思うデイクアに

会ひては去りし友等如何にと

合志 桃花

復興のトラック走る立野坂

入り日美し夕やけの中

山内 信子

復興もすすみ三たびの正月を

阿蘇北宮に祈りをささぐ

山内あさ子

待ちに待ちし男子^{おのこ}は生れて中山家

背負いてたむむ日を祈るなり

中山 春代

リハビリの先生きびしき指示すれど

言葉はやさしわれもはげまな

立野 誠子

み社の楠の大樹も注連飾り

子らはかにくじ当せんに沸く

磯崎テル子